

公益財団法人 日本城郭協会 2020 年度事業報告書

1. 「城郭文化振興に寄与した個人及び団体を顕彰する事業」の創設延期

当協会が提唱した「日本100名城」・「続日本100名城」へのスタンプラリーへの参加者はさらに増加しており、外国人旅行者のお城探訪者の増加と相まって「お城」に対する社会的関心はますます高まっている。

こうした環境を踏まえ、当協会は城郭文化のさらなる振興のための事業として、2020年度に城郭文化振興に寄与した個人・団体を顕彰する制度を創設することで準備を進めていたが、新型コロナ禍により調整作業が遅れ2020年度には公式発表できなかった。

2. 「会員増強計画—会員増強への取り組み強化・推進—」

協会の事業や活動を支えてくれる会員の増強は協会の運営の基本活動である。会員は近年増加しているが、昨年度に引き続き本年度も会員増強に取り組んだ。ただ新型コロナ禍によって会員交流会などはすべて中止となった。

また会員増強キャンペーンも実施できなかった。

ただ法人会員勧誘には積極的に取り組み、法人入会のための規程の見直しなどおこなった。

そのほか会員サービスの強化の一環として会報の一層の充実を図り、会員からの寄稿欄の拡充を行なった。

3. 「日本100名城スタンプラリー」・「続日本100名城スタンプラリー」の運営と新型コロナ対策

2018年4月にスタートした「続日本100名城スタンプラリー」は「日本100名城スタンプラリー」と相まって多くのお城ファンに支持されているが、今期は新型コロナの感染拡大防止の非常事態宣言によって、登城禁止やスタンプ押印中止などの城が相次いだ。当協会もHP上でスタンプラリー自粛を呼びかけた。こうしたことから2020年度のスタンプラリー参加者は激減したと推測している。

4. 「城の自由研究コンテスト」実施、「親子名城見学会」は中止

「城の自由研究コンテスト」「親子名城見学会」は児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を上げてきたが、2020年度も一層の充実を務めた。

「城の自由研究コンテスト」応募数は前年度より少し減少したが、文部科学大臣賞他主催者賞の各作品の内容は例年に劣らず素晴らしい内容だった。なお例年のような表彰式は新型コロナ感染防止のため取り止めた。

なお「親子名城見学会」は新型コロナ禍ですべて中止した。

5. 「お城 EXPO 2020」の開催

恒例の「お城 EXPO」は2020年12月19日～20日、パシフィコ横浜ノースという新設のコンベンション会場で開催した。今回は新型コロナ感染防止のため、入場者検温や消毒、ソーシャルディスタンス確保など徹底的な感染防止対策をとっての開催だった。結果前夜祭を含めて3日間で9189名の入場者があった。

また2020年8月滋賀県で開催予定の「出張お城 EXPO」は新型コロナ禍のため規模を縮小し9月に実施した。

6. 「日本城郭検定」1回実施・「EXPO 検定」は実施

日本城郭検定は今期、6月と11月の2回開催を予定していたが、6月は新型コロナ拡大防止のため中止したが、11月は厳重な感染防止対策の下で実施した。

また「お城 EXPO」内での「EXPO 検定」は厳重な感染防止対策の下実施した。

今回は試験後ただちに会場内で成績結果発表という方式を採用したが、好評だった。

7. 「熊本城復興義援金などの熊本城復興支援事業」を継続

2016年度新設した熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は2020年度も継続し様々な場面で幅広く義援金を募り、集まった79,000円を熊本城復興基金に寄附した、

8. 「学術委員会の活動強化及び学術委員」の拡充

学術委員会の活動強化に努めた。お城 EXPO の講演企画にも積極的に参加関与すると共に「日本城郭検定」の問題作成を主導し、検定問題の充実を図った。また当協会の公認サイト「城びと」へ協力を強化した。

学術委員に城郭研究者や各城の学芸員を新たに委嘱した。